

建設常任委員会資料

令和4年3月1日

(2022年)

まちづくり活性部 東部丘陵整備課

新名神推進課

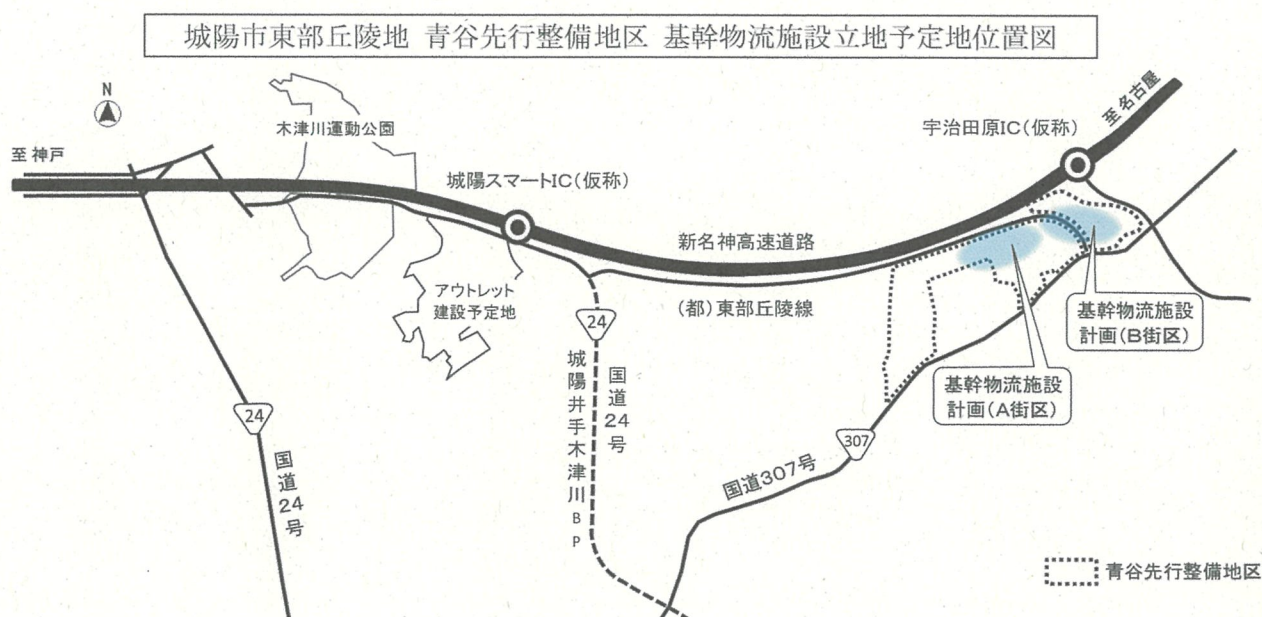
東部丘陵地整備について

1. 城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区の開発について
2. 新名神高速道路 連絡調整会議の開催結果について

1. 城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区の開発について

京都府と城陽市が共同で企業誘致を進めておりました城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区について、以下のとおり（仮称）青谷地区基幹物流施設計画（A街区）の進出事業者と地権者が土地区画整理事業について同意に至り、（仮称）青谷地区基幹物流施設計画（B街区）とあわせて整備が開始されることとなりました。

（ア）位置図



（イ）A街区の開発計画の概要

① 事業名

（仮称）青谷地区基幹物流施設計画（A街区）

② 事業者

三菱地所株式会社

③ 事業予定地

城陽市奈島（城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区）

④ 事業規模

敷地面積 約 12 万 m² 延床面積 約 28 万 m²

⑤ 事業内容

新名神高速道路 I C と隣接した次世代物流拠点の整備

※敷地面積等は現時点における計画であり、今後、変更の可能性
があります。

(ウ) B 街区の開発の概要

① 事業名

(仮称) 青谷地区基幹物流施設計画 (B 街区)

② 事業者

城陽東部開発有限責任事業組合

(組合員：大成開発株式会社、株式会社エスディック)

伊藤忠商事株式会社及び東急不動産株式会社 (参画予定)

※上記組合及び伊藤忠商事株式会社が物流施設用地の基盤整備
(造成工事)、東急不動産株式会社が基幹物流施設整備を予定。

③ 事業予定地

城陽市奈島 (城陽市東部丘陵地青谷先行整備地区)

④ 事業規模

敷地面積 約 8 万 m² 延床面積 約 19 万 m²

⑤ 事業内容

物流施設用地の基盤整備 (造成工事)

(城陽東部開発有限責任事業組合、伊藤忠商事株式会社)

新名神高速道路 I C と隣接した次世代物流拠点の整備

(東急不動産株式会社)

※敷地面積等は現時点における計画であり、今後、変更の可能性
があります。

(エ) イメージパース



(提供：三菱地所株式会社)

(オ) 今後の予定

(仮称)青谷地区基幹物流施設計画(A街区)につきましては、青谷先行整備地区の残りのエリアを含めて、土地区画整理事業を予定されており、まず、「城陽市東部丘陵地まちづくり条例」に基づく大規模開発基本構想の届出、その後、計画の熟度が上がれば、開発基本計画の届出がされ、土地区画整理事業により基盤整備されることとなります。

(仮称)青谷地区基幹物流施設計画(B街区)につきましては、事業者より意見書提出者に対し、見解書が提出されましたので、今後、城陽市と事業者で条例に基づく協定を締結し、都市計画法等の各種開発手続きを進められる予定です。

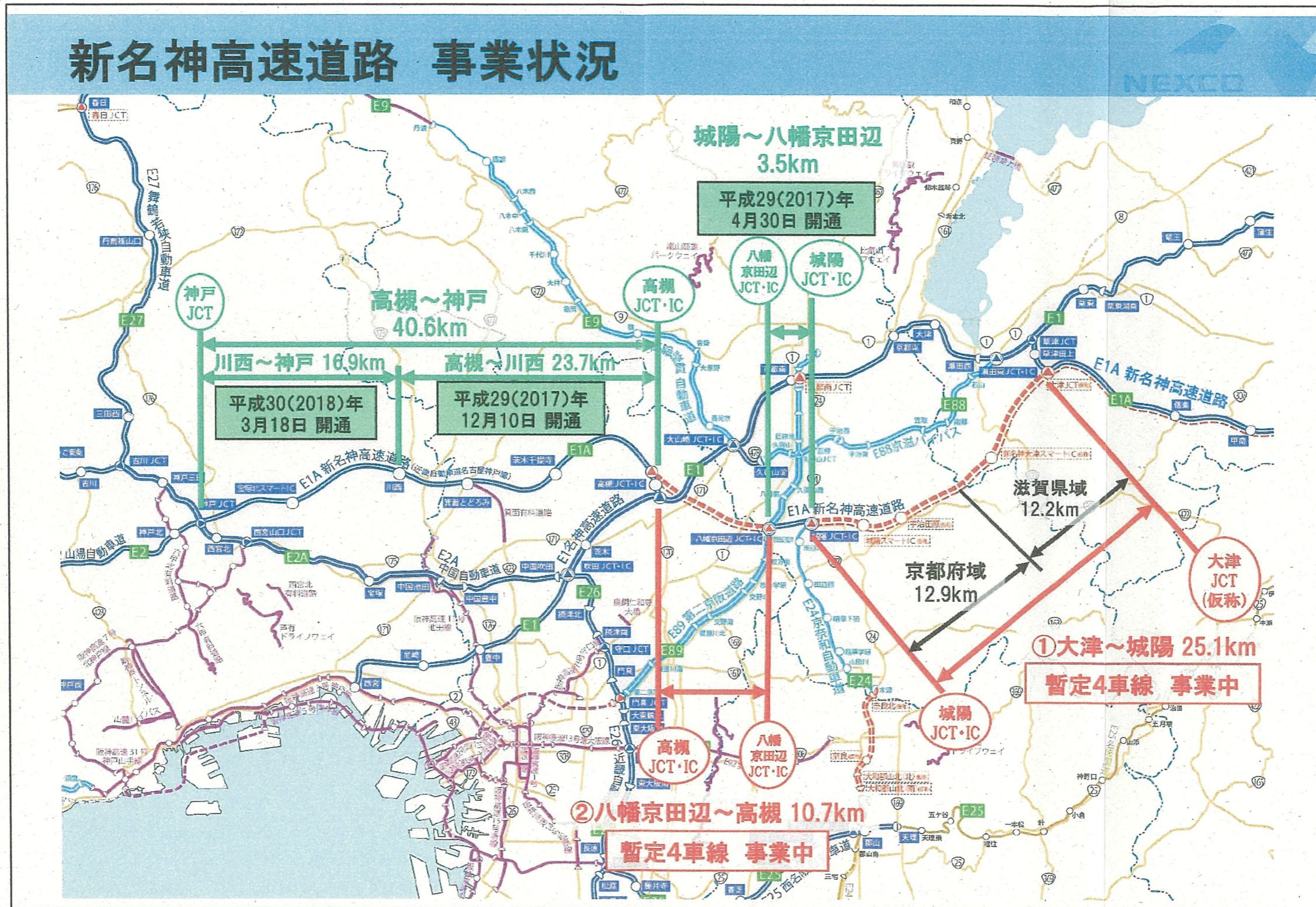
なお、(仮称)青谷地区基幹物流施設計画(A街区)並びに(B街区)とも令和8年に竣工される予定です。

(カ) その他

(仮称) 青谷地区基幹物流施設計画 (A 街区) 及び (B 街区) の計画地は、令和元年 8 月に「新しい物流システムに対応した高速道路インフラの活用に関する検討会」が策定した中間とりまとめを踏まえ、トラックドライバー不足や、物流システムの効率化等に対応する取組として、将来的な後続車無人隊列走行トラック専用の物流拠点など自動運転に対応した物流施設開発を行うことも視野に入れて取り組まれる予定です。

2. 新名神高速道路 連絡調整会議の開催結果について

(ア) 新名神高速道路 事業状況



(NEXCO西日本 提供資料)



News Release

令和 3 年 12 月 27 日

西日本高速道路株式会社

報道関係各位

**E1A 新名神高速道路 大津 JCT(仮称)～城陽 JCT・IC 間
連絡調整会議の開催結果について**

本日開催した E1A 新名神高速道路 大津ジャンクション(JCT)(仮称)～城陽ジャンクション・インターチェンジ(JCT・IC)間の連絡調整会議の開催結果をお知らせします。

会議の概要は以下のとおりです。

1. 開催日時
令和 3 年 12 月 27 日(月) 10:00 ～ 11:00
2. 開催場所
西日本高速道路株式会社 新名神京都事務所 会議室
3. 議事概要(別紙1)
主な議事内容
・用地契約が 99%完了しているが、移転が未了な箇所が存在
・河川付近の基礎工事時に、想定していなかった湧水が発生するなど工事が難航
・土地所有者の移転先の造成工事や建築工事が、天候不順の影響により工事が難航しており、工事が未着手の状況
・土地の引渡しが遅れた一部の地域では、保安林解除等の諸手続きを行っており、工事が未着手の状況
・以上のことなどを踏まえ、工程を精査した結果、開通予定は、2023 年度から 2024 年度に見直し
4. 説明資料(別紙2)

この記者発表資料に関するお問い合わせ先

NEXCO 西日本 関西支社 広報課 担当/西垣、澤田 TEL. 06-6344-9376(マスコミ専用)

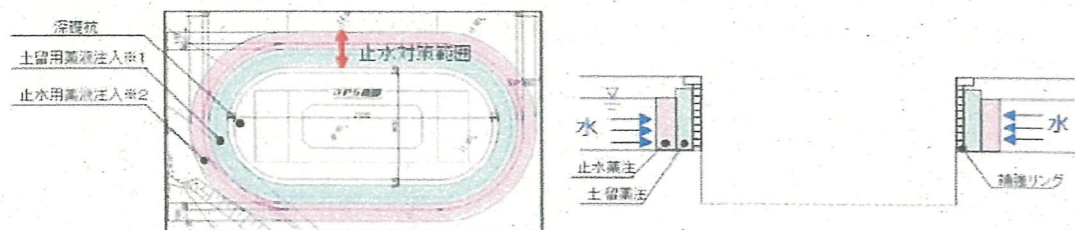
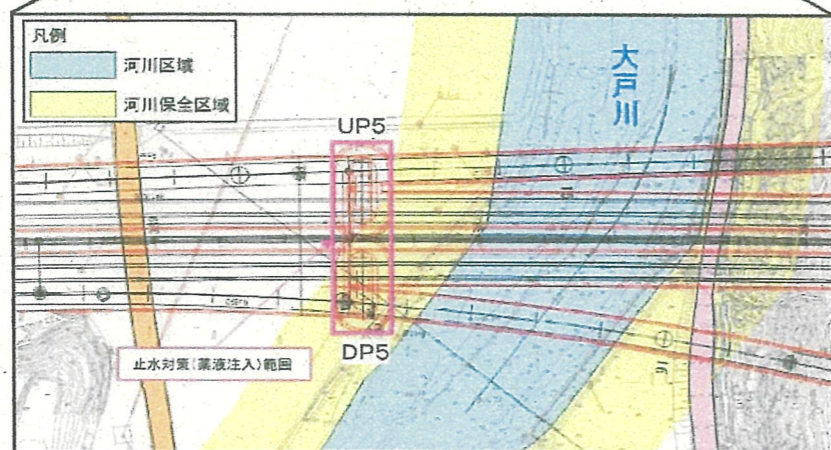
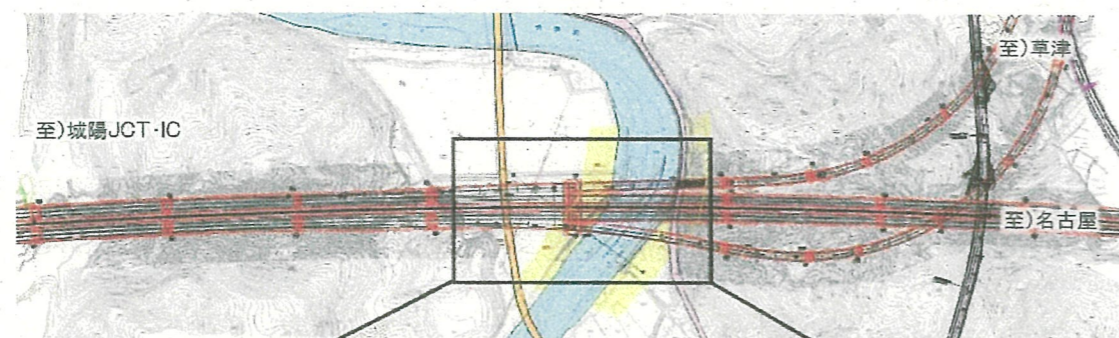
※本資料は、近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、大阪建設記者クラブ、大阪商工記者会、滋賀県政記者クラブ、京都府政記者クラブにお配りしています。

●工事工程の課題 (滋賀県域①)

(4) 工事工程の課題(滋賀県域)

※事業中区間のJCT・IC及び構造物名称は仮称

- 2019年10月に大津JCT付近の一級河川大戸川の河川区域内に位置する橋脚の基礎施工において、想定していなかった湧水が発生しました。
- 関係機関と協議し、環境に配慮した薬液注入による止水対策工を追加したことにより、工事工程が遅延しています。

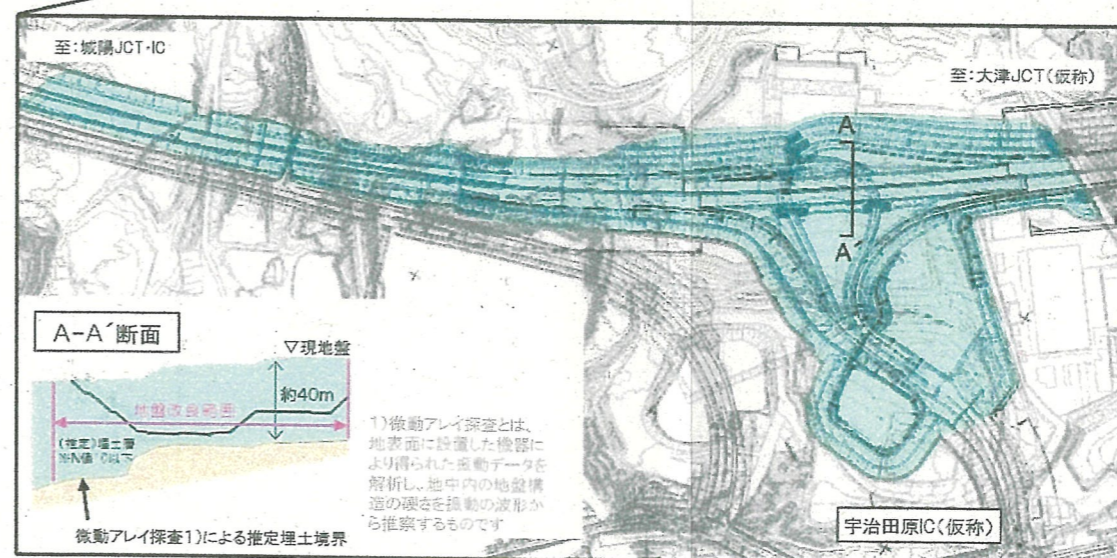
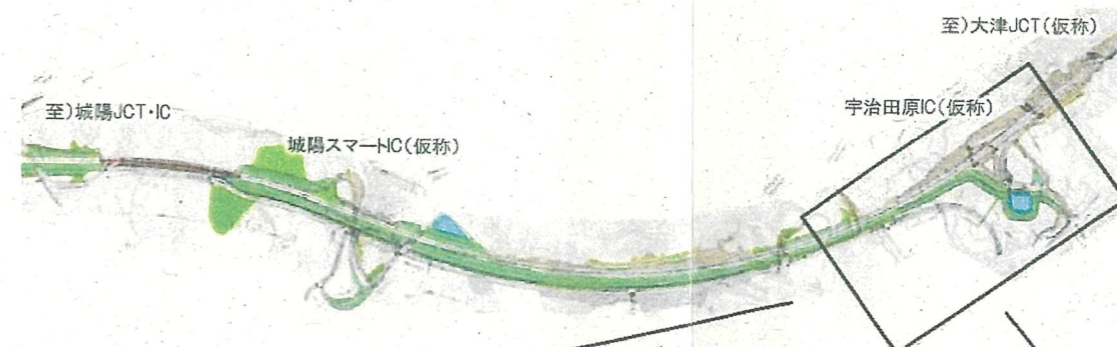


●工事工程の課題 (京都府域①)

(4) 工事工程の課題(京都府域①)

※事業中区間のJCT・IC及び構造物名称は仮称

- 土地の引渡し未了箇所は、現在、移転先の造成工事や建築工事が、平成30年台風第21号や令和2年7月豪雨等の天候不順の影響により工事が難航し、新名神の建設工事着手は、2023年4月以降と見込んでいます。
- また、当該地は山砂利採取後の埋土層が広範囲に分布しているため、土地の引渡し後に土質調査を実施し、地盤改良等を行いながら工事を実施していきます。

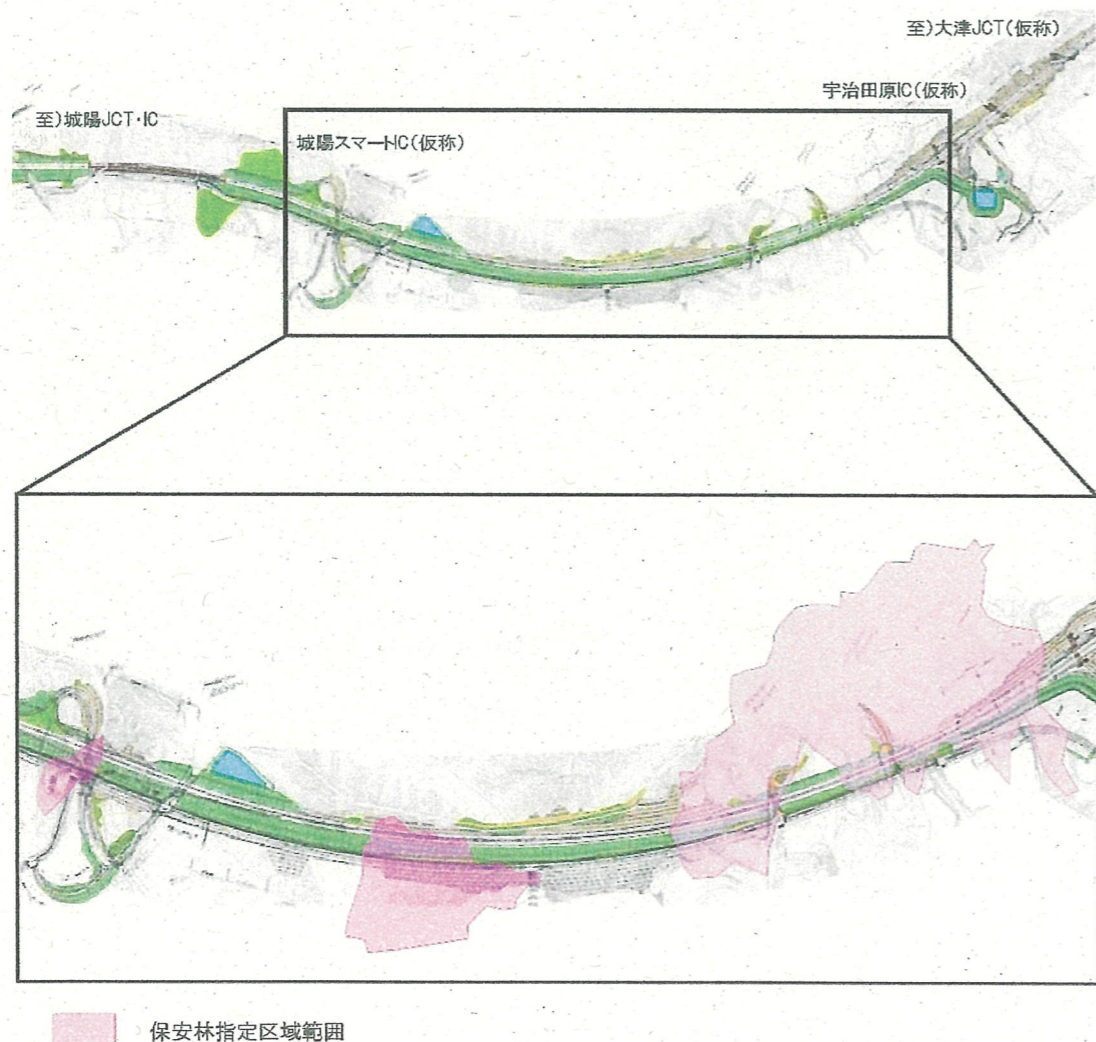


●工事工程の課題 (京都府域②)

(4) 工事工程の課題(京都府域②)

※事業中区間のJCT・IC及び構造物名称は仮称

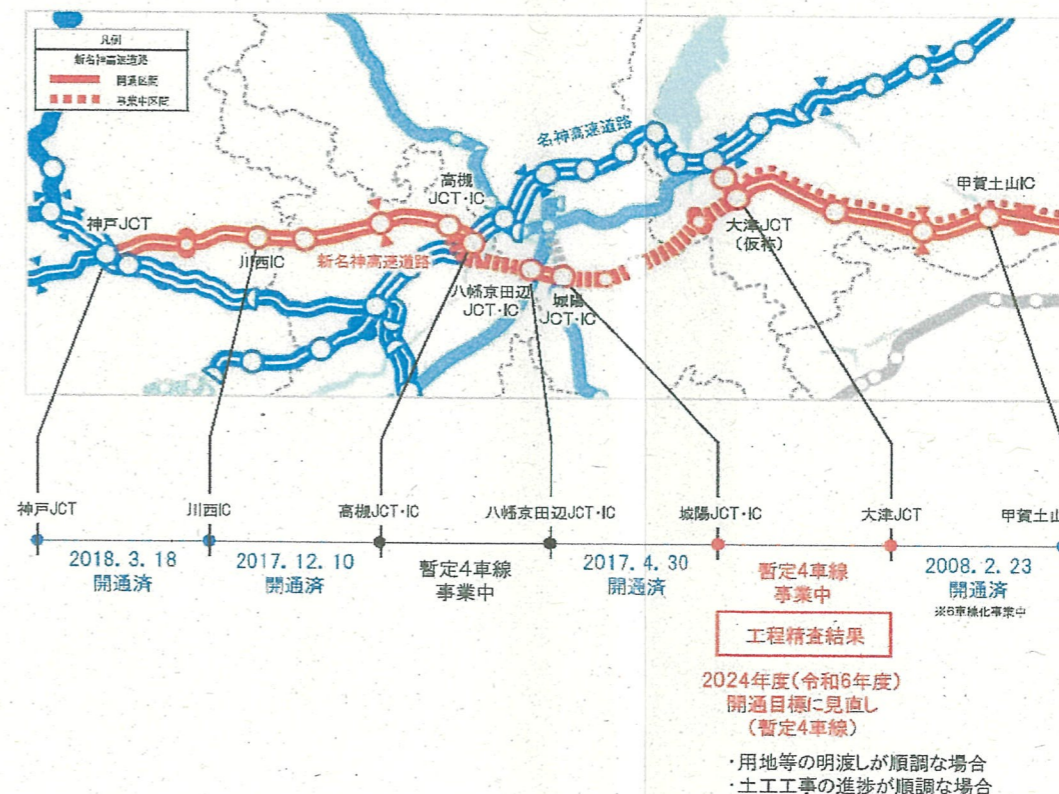
- 城陽市域の丘陵地は、用地取得に時間を要し、工程が遅延しています。
- 現在は、用地取得が完了し、本線工事着手に向け保安林解除等の諸手続きを実施しています。
- 諸手続き完了後、本線工事に着手しますが、当該区間は切盛土量約200万^mと大規模な土工工事であることから、安全に留意し工事を実施していきます。



●工程精査

(5) 工程精査

- 工事工程に課題がある箇所について、工程精査を実施しました。
- 工程精査の結果、大津JCT(仮称)～城陽JCT・IC間の開通目標を、2024年度(令和6年度)に見直し、引き続き、土工・橋梁工事等の促進を図りながら1日も早い開通を目指します。





令和 4 年 2 月 9 日
西日本高速道路株式会社

報道関係各位

**E1A 新名神高速道路 八幡京田辺 JCT・IC～高槻 JCT・IC 間
連絡調整会議(第 2 回)の開催結果について**

本日開催した E1A 新名神高速道路 八幡京田辺ジャンクション・インターチェンジ(JCT・IC)～高槻ジャンクション・インターチェンジ(JCT・IC)間の連絡調整会議(第 2 回)の開催結果をお知らせします。

会議の概要は以下のとおりです。

1. 開催日時

令和 4 年 2 月 9 日(水) 10:00 ～ 11:00

2. 開催場所

西日本高速道路株式会社 関西支社 新名神大阪東事務所 会議室

3. 議事概要(別紙 1)

主な議事内容

- ・枚方トンネル東坑口部において、用地取得(物件移転)に時間を要したことや、地下に汚染土等が確認されたため、追加で作業を実施したことで工事着手が 3 年程度遅延しました。
- ・枚方トンネル東坑口部の発進立坑の仮設土留め工の施工において、砂礫層における想定以上の硬さ等により工事継続が困難となり、工法を変更したため、時間を要しています。
- ・枚方トンネルの掘削土の運搬計画、狭小ヤードでのシールドマシンの回転作業や、掘進計画の見直しに伴い工事に時間を要します。
- ・以上のことなどを踏まえ、工程を精査した結果、開通目標を、2023 年度から 2027 年度に見直しました。

4. 説明資料(別紙 2)

この記者発表資料に関するお問い合わせ先

NEXCO 西日本 関西支社 広報課 担当/西垣、澤田 TEL. 06-6344-9376(マスコミ専用)

※本資料は、近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、大阪建設記者クラブ、大阪商工記者会、大阪府政記者会、京都府政記者室にお配りしています。

●工事工程の精査について

(2) 工事工程の精査について

再掲

※事業中区間の構造物名称は仮称

- 枚方トンネル東坑口部において、
 - ・用地取得(物件移転)に時間を要した
 - ・地下の土壌に基準値(0.01mg/l)の2倍以上の濃度の鉛が検出され土壌汚染対策法に基づく作業を追加
 - ・地中にコンクリート構造物等が出現したため、撤去作業を追加
 などから、工事着手が3年程度遅延しました。
- 工事着手後、発進立坑の仮設土留め工において、地中連続壁を施工。当初、原位置攪拌工法により着手したが、事前の土質調査では未確認だった砂礫層における想定以上の硬さ等により、施工機械が動かなくなるなど問題が発生。工事継続は困難との判断に至り、工法について掘削を基本とする工法に変更し、工事に時間を要しております。



枚方トンネル東坑口部付近



土壌汚染対策法に基づく作業を追加



コンクリート構造物等の撤去作業を追加

・仮設土留め工の工法変更

原位置攪拌工法

地盤に挿入したチェーン型のカッターを横方向に移動させて、溝の掘削と固化液の注入、原位置土との混合・攪拌を行い、地中に連続した壁を造成



泥水置換工法

原位置で攪拌せず、掘削に合わせ泥水(安定液)で置き換える。その後、芯材建込み、ソイルセメント打設を実施

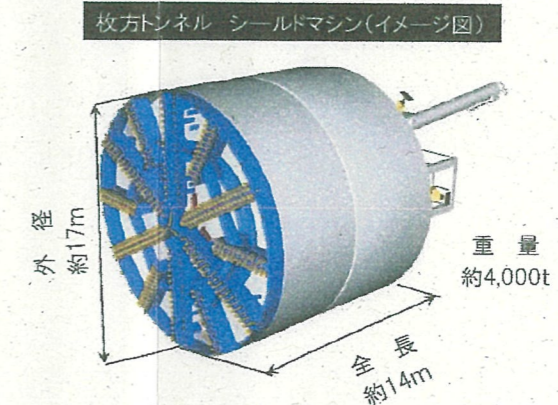
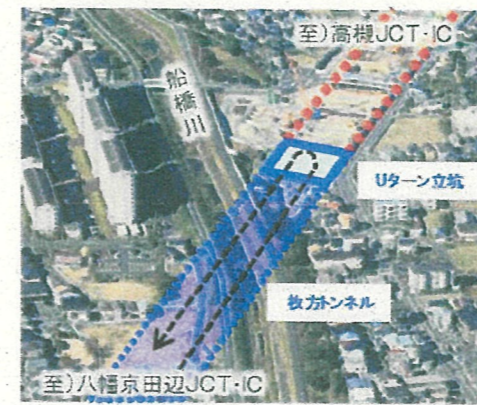


●工事工程の精査について

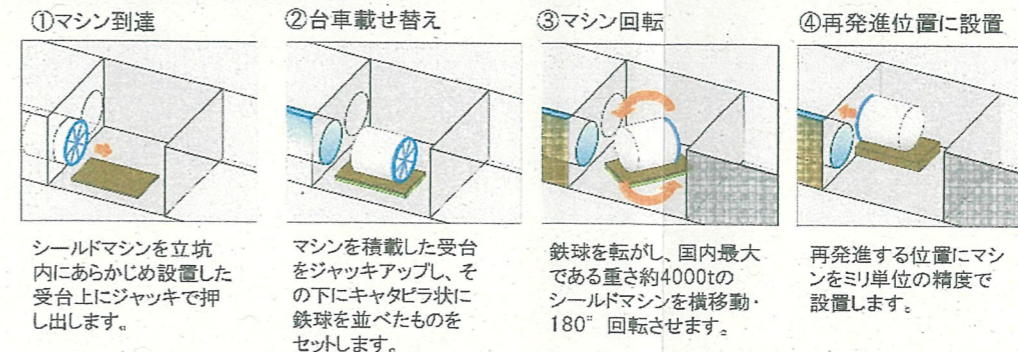
(2) 工事工程の精査について

※事業中区間の構造物名称は仮称

- 枚方トンネルの工程の精査について
 - ・トンネル掘削土の運搬車輛の受入れ台数制限による計画の見直しが必要となりました。
 - ・河川近傍かつ家屋連担地域内でUターン立坑を構築していますが、狭小ヤードでの国内最大級のシールドマシンの回転作業等に時間を要します。
 - ・初期掘進から本掘進への段取替え作業時にはマシン停止が必要となりますが、河川近傍での停止位置を見直すことで、初期掘進の施工延長が延び時間を要します。
 ※初期掘進とは、後続の土砂搬送設備等を設置可能となる区間までの掘進であり、本掘進と比べ時間を要します。



【シールドマシンの回転作業の流れ】



(3) 工程精査の結果について

■ 工事工程に課題がある箇所について、工程精査を実施しました。

■ 工程精査の結果、八幡京田辺JCT・IC～高槻JCT・IC間の開通目標を、2027年度(令和9年度)に見直し、引き続き、土工、橋梁、トンネル工事等の促進を図りながら1日も早い開通を目指します。

